

～毎月10日は人権を考える日～

## カナダ・モントリオールの人権教育から



モントリオールは、人口380万人の都市です。カナダは多民族国家であり、移民や難民、先住民など多くの民族が生活しています。モントリオール市内を歩いていると、先住民、イギリス系住民、フランス系住民、中国系、イタリア系、ドイツ系、ウクライナ系といろいろな方に会うことができ、多民族都市であることが一目瞭然でわかります。歴史の中で、英語とフランス語の使用の対立があり、現在、公用語はフランス語です。しかし、両方の言語を使える住民

の方々も多いと言えます。このように、あらゆるところに「違い」が見えるモントリオールです。

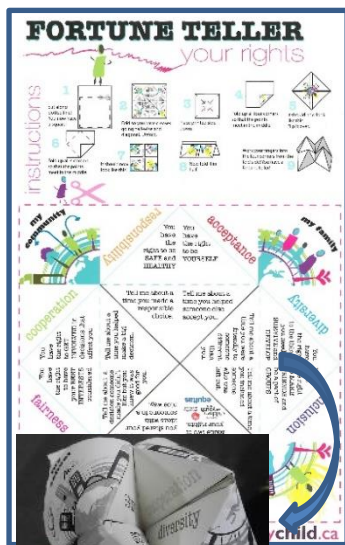
10年前、ALT（外国語指導助手）として西条市内の学校に勤務されていた、エイミー・クーパーさんを訪ねての旅でした。彼女は、現在、カナダの人権教育機関・NGO法人「**equitas**」の職員です。彼女と、カナダや **equitas** の人権教育について話す機会を得ました。



（「equitas」の人権教育ガイドから）

この **equitas** における人権教育には、6歳から12歳を中心に行われている「**Play It Fair!**」というプログラムがありました。「公平にしよう!」という意味があり、「平等と多様性」について学習できます。多民族国家であることで、「違い」に対して受容できる態度と知識が絶対不可欠だと思います。また、「人間の尊厳」を重要視しています。尊厳を破壊するものは、「差別」に他ならないのです。カナダに住んでいる黒人の方が言われていましたが、「人種差別をあまり感じないんです。」と。全く差別がないかどうかはわかりませんが、カナダの人権教育の成果はあると思います。

このプログラムで身に付けることのできる価値は、「受容」「公正」「多様性」「責任」「協力」などです。小学校では、放課後児童クラブや学校の授業、キャンプ等の中で行われていました。ゲームとグループディスカッション等の方法が十分行われていました。



子どもの感想から：「**I take more care of others and others take more care of me.**」  
（「私は、より人を気にかけるようになり、人はより私を気にかけてくれるようになりました。」）

### Equitas の人権教育の教具

エイミーさんが、帰国後、日本の「折り紙」を活用して作ったもの。外側に、4つの領域（自分、所属するコミュニティー、学校、家族）が書かれており、内側には価値や権利が書かれている。その組み合わせでディスカッションが行われます。もう一つ中側を開けると、ディスカッションの答えのような内容が書かれていました。

お互いの違いを認め合い、そして、違いが大切にされる社会こそ  
誰もが生きやすいと感じることのできる社会です!